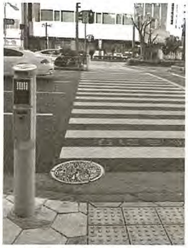
介護新聞アソートメント

高齢者・視覚障がい者用ＬＥＤ付音響装置

信号機補助として篠原電機（大阪）が開発


大阪市天王寺区に設置された装置

電設機器や鉄道・交通信号機材等を開発・販売する篠原電機（本社・大阪市）は、高齢者・視覚障がい者用ＬＥＤ付音響装置を開発。２００７年に都市交通・ユニバーサルデザイン等の学識経験者を中心とした「高齢者・視覚障がい者誘導システム検討委員会」を組織し、実用化に向けて普及活動を行っている。

現行の歩行者信号機は、横断歩道を渡った先に設置されているため、▼高齢者や視覚障がい者にとって確認しづらい▼音響信号機の大半は早朝や夜間に誘導音が止められる―などの課題があった。

同装置は、歩行者信号機の補助装置として開発され、信号部分は弱視者に見やすく、健常者にはまぶしくない明るさのＬＥＤを使用。スピーカーは現行より低い1メートルの高さに設置されているため、聞きとりやすい。押しボタンスイッチにより（警察による設定）、音響信号停止時間帯でも音声で確認することが可能だ。

大阪府、愛知県では実証実験含め既に数個所設置。同社は「北海道でも警察や行政などに向けて、同装置の普及を図りたい」としている。問い合わせは☎06（6358）2657（担当・兼崎氏）。

視覚障がい者用歩行誘導ソフトマット

音と感触で誘導路を認識

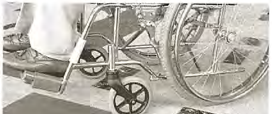
錦城護謨

歩導くん

錦城護謨は、視覚障がい者歩行誘導ソフトマット「歩導くん」を販売している。

「歩導くん」を開発したのは、自ら視覚障がい者でもある、島根県の企業トーワの杉原司郎会長。凸凹タイプの誘導ブロックは、車いす、ベビーカー、移動式ベッドなどで乗り越える際に引っかかることや、雨などで濡れると滑りやすいという課題があった。

「歩導くん」は、視覚障がい者が凸凹の代わりに白杖でたたく際の音の違いや、足から伝わる感触によって誘導路を認識できるマットで、床との段差は1ミリ程度。濡れても滑りにくい特殊素材を使用し、施工も既存の床の上に両面テープで貼るだけ。


段差が少なく表面はフラットなので、車いす等の車輪が引っかからない

公共機関、病院、福祉施設、大学、イベント会場などさまざまなスペースで導入されており、道内でも金融

きていこう」

51歳で発症し、デイサービスを利用しながら、相模原市で一人暮

若年認知症当事者が登壇し、その思いを訴えた（右・青山氏、左・前田理事長）

七飯町

クローズアップ

当事者の思い考える機会に

認知症の青山仁氏（5

歳）が、会場を埋めた２００人超の聴衆に呼びかけた。24日、道南の七飯町文化センターを会場に開かれた、認知症サポーター養成講座でのことだ。

同種の講座は道内でも数多く開かれているが、その多くは公的な機関の作製した、教

疑の時間も十分に取られ、参加者が当事者の実際の生活や日ごろの思いを知る機会が設けられた。

今回の企画について、主催したケアサービスドウナンの中村久子社長は「ただ知識を学んでもなかなか身につかない。当事者の話を聞くことで、認知症を実感してほしかった」と説明。

当日は、他の養成講座では珍しい「紙しばい」も行われた。熊本県の小学生が描いた作品

行理事長が披露

「実話に沿ったストーリーで、小学生と認知症の祖母の生活が描かれ、子供から大人まで認知症の理解を深めることができる作品」と前田理事長。町田市では、学童保育などの場を通じ、認知症の知識普及に成果を上げているという。

青山氏と会場との質

20代

ったた

の思

で考

に違

中村

野北

村で

活動

症の

って

け合

が支

って

いた。